

# 幼児の自然体験に寄り添って

余語晶子

(フィールドガイド)

私は家族を対象とした、幼児の参加できるネイチャーツアーを運営しています。

二名のガイドでこの一年間に二二〇組が参加。

子どもの人数は三五三人、うち七歳以上は七十人と、ほぼ幼児でした(〇歳二十一人、一歳三十三人、二歳六十一人、三歳三十六人、四歳五十六人、五歳四十六人、六歳三十人)。

フィールドはマングローブの川、干潟、ジャングル、溪流、海、ビーチなどで、体験できることはカヌー、干潟の生き物探し、ジャングルトレッキング、溪流水遊びなどの他、ネイチャーゲームやヤシの葉っぱのクラフトなども取り入れています。

年代別に遊びの様子を紹介します。

## 赤ちゃん期(〇歳～一歳前半)

赤ちゃんも、暑さ、寒さ、紫外線から守ってあげれば野外に連れていくことができます。

生後六か月の赤ちゃんでも、森に入ると、木漏れ日のキラキラや葉っぱがさやさやすることなど、目をきよろきよろさせて喜ぶ様子が見られます。

一歳にもなると、水遊びや泥遊びなど全身を使った遊びも喜ぶようになります。



▲お昼寝は日傘の下で。

余語晶子(よこ あきこ)

2004年にカヌーと自然観察のショップを立ち上げた後、

2010年にファミリー専門の自然体験のショップを友人と

立ち上げる。活動拠点は沖縄県西表島。



▲川の水の流れが不思議でたまらない。



▲カニさん怖くないよ。

カヌーは抱っこひもに入って乗りますが、水の上でゆらゆらするのが気持ち良くて寝てしまってお子さんが多いです。

### よちよち期（一歳後半～二歳くらい）

この頃になると、魚やカニを見てわかるようになります。大人が捕った生き物を真ん丸目で観察したり、小さな手で触ったり。魚が意外とぬるつとしているのにびっくりして手を引つ込めたりします。まだ自分の手で魚を捕ることはできませんが、網で葉っぱをすくったり、ヤシの葉っぱで作ってあげた魚のお

もちゃで遊んだりして喜びます。

カヌーに乗るときは大人の膝の間にお座りしてもらうのですが、「自分で」の強いお子さんは、大人からパドルを奪って一生懸命動かしたりもします。

### わんぱく期（三歳～六歳くらい）

年齢が上がるに従い、できることが増えてきます。

水に慣れているお子さんでしたらゴーグルやシュノーケルマスクを着けて、水が苦手なお子さんも「箱メガネ」で水中観察ができます。その子に応じた高さからの飛び込みなど大胆な水



▲楽しくて楽しくて。



▲私もやってみたい！



▲「僕、自分で捕ったよ」



▲川の探検に出かけるよ。



▲小学生になるとこんな大胆なジャンプも。

遊びも楽しめるようになります。

トレッキングは子どもが行きたそうにしていたら、道ではなくあえて川の中を歩くなど、子どもの冒険心を満たすこともあります。

四歳くらいから、大人がお手伝いしながらですが網で小魚を捕ることもできます。「僕、お魚捕ったんだよ」と旅行から帰ってもずっと言っているという話をよく聞きます。

このくらいの年齢の子は自分で身体を動かして生き物を探したり

泥遊びをするほうが楽しいので、たいていカヌーをもっと漕ぎたい大人と干潟でずっと遊んでいたい子どものせめぎ合いとなります。

このように、幼児でも心や体の発達に応じて自然遊びを楽しむことができます。「小さな子どもを連れて、こんなに遊べると思わなかった」という感想をよく頂きます。できなかったことができるようになったり、苦手を克服できたり、子どもの成長を親御さんと一緒になって喜べたときはやりがいを感じます。

### 自然の力を借りながら

多くの子どもは自然の中で自分で楽しいことを見つけて生き生きと遊びます。ですが、なかなか遊びに入っていけないお子さんもちろんいます。



▲干潟は広大なお砂場。やりたい放題です。

砂が嫌で生き物が怖いお子さんは、干潟で遊ばせようとしても意地でも地面に足が着かないよう親にしがみつきます。徐々に慣れていくお子さんがほとんどですが、カヌーから絶対に降りないのでカヌーの上でおままごと（葉っぱのお弁当作り）をしたこともあります。

水が苦手な二歳の男の子。足が水に着くだけで泣いてしまいます。ケチャップの空き容器の水鉄砲から始めて、少しずつ水の楽しさを見つけていきます。だいたい慣れてきたから今度は浮き輪に挑戦、と思っても、初めて見る浮き輪を怖がります。その日は他にもう一族、少し年上の女の子がいて、男の子に「怖くないよ」と声掛けをしたり、楽しく遊んでいるところを見せてくれたりしました。その甲斐あって最後には浮き輪をマスター。浮き輪に入ったら「楽しい」ということに急に気がついて楽しく遊ぶ頃には時間切れ。今度は帰りたくないと言ったので、大人は大笑いでした。

カヌーが嫌で号泣していた二歳の女の子（おそらく、カヌーに乗る前に楽しんでた泥遊びを中断させられたため）。トラウマになったかどうかと思うと思っていたら、後日、「あんなに泣き叫んでいたのに、パンフレットに載っているカヌーの写真を見たら、『○○ちゃん、これ乗ったね』と満面の笑みで言うんですよ」とお母さんから知らされ、子どもって本当にわからないものだと思います。

自然遊びが苦手でも、川の水が冷たいと感じることだって体験の一つなので、子どもが自然と触れあうことは大事だと思っ  
ています。一人ひとり好きなこと、苦手なことも違うので、子どもに学びながら、自然の力を借りながら、子どもの自然体験に寄り添っていき  
たいと思います。



▲あっちに何がいるかな。